

日本との交友の思いを胸に ウズベキスタンから舞鶴を訪問

ウズベキスタン・タシケント市で「日本人抑留者資料館」を運営しているジャリル・スルタノフ氏が1月20日、舞鶴引揚記念館を訪問。同館を見学したほか、同地で抑留を経験し、ナヴォイ劇場の建設に従事した新家苞さん（91歳、大阪府高槻市）と対面しました。

また、若浦中学校や日星高校などの学生、市民ら約120人を前にスルタノフ氏は「日本人抑留者によって建設されたウズベキスタンにあるナヴォイ劇場は、市内の多くの建物が倒壊した大地震にも耐えたことから、日本人抑留者の仕事ぶりや勤勉さがウズベキスタン国民の親日の由来となっている。両国の若者の交流が進めばうれしい。」と話しました。



ウズベキスタンの国旗を持ってスルタノフ氏を迎える市民



抑留経験者の新家さんと握手を交わす



逆境にあっても誇りを失わない日本人のすばらしさを語る



貴重な文化財を守るために 松尾寺で文化財防火訓練

1月26日の文化財防火デーを前に24日、松尾寺で文化財を火災から守る消防訓練が行われました。

訓練は、東消防署や消防団、地域住民など約60人と消防車両11台が参加。本堂から出火したとの想定で、寺の職員が仏像に見立てた箱を運び出した後、消防団による放水も実施。訓練を行い、もしもの時の連絡体制や消火手順を確認しました。

また、同日に西地区の大川神社でも訓練が行われました。



迅速な消火のための的確な放水



文化財に見立てた箱を搬出



真剣なまなざしで英語かるたを行う子ども達



楽しく遊んで自然に英語を学ぶ

英語の先生はお兄さん・お姉さん 高校生が英語をレクチャー

東舞鶴高校国際文化コース3年生26人が1月15日、志楽小学校の児童に英語を教える授業を開催しました。授業には4年生66人が参加。

東舞鶴高校の生徒たちは、「小学生が体験しながら学べるように、『まずは楽しく』をコンセプトに英語でのフルーツバスケット（いす取りゲームの一種）や手作り英語かるたなど、英語への関心が高まるようにしました。」と工夫した点を教えてくれました。高校生と小学生と一緒に遊びながら英語に触れ合い、教室の中は笑顔と英語であふれかえていました。

お兄さん、お姉さんが遊びを取り入れて英語を教えることで、児童たちが英語を身近に感じ、楽しむことから学ぶきっかけになりました。

全国ツアーを終えて 「君よ生きて」トークライブ

シベリア抑留や引き揚げをテーマにした音楽劇「君よ生きて」（望月龍平シアターカンパニー）を演出した望月龍平さんと出演者によるトークライブが1月30日、引揚記念館で行われました。

「君よ生きて」は、舞鶴だけでなく全国各地で公演され、ツアーでのエピソードや「この劇を演じていると『望郷の念』が湧いてきて、故郷に帰りたくなった」などさまざまな思い出を語ってくれました。

また、出演者による発声指導やアカペラの披露などもあり、参加した日星高校の生徒も一緒に劇中歌を歌いあげ、劇の感動が呼び起されました。



日星高校の生徒も交えて劇中歌を歌う



作品に対する思いを語る出演者



お父さん、お母さんも子ども達の力作に感心

教育美術展に878点 子ども達の力作がずらり

2月6日と7日、総合文化会館で舞鶴幼稚園と市内の小・中学校に通う園児・児童・生徒の作品を集めた教育美術展覧会を開催しました。

会場には、絵画や版画、立体作品など、それぞれ工夫を凝らした878点を展示。訪れた人たちは、ずらりと並んだ子ども達の力作に感心した様子で見入っていました。